
新発見・二葉亭四迷ロシア滞在期の日記2冊

—その紹介と翻刻—

中 島 国 彦
宗 像 和 重
源 貴 志

解題

今回紹介するのは、新しく早稲田大学中央図書館蔵となった、1908年（明治41）8月から12月にかけての二葉亭四迷の日記2冊である。これまで所在がわからなかった資料であり、現在最も新しい『二葉亭四迷全集』全7巻＋別巻（筑摩書房、1984・11～1993・9）では、7巻「雑纂」（1991・11）に収録されている「露都より朝日新聞への電報控（一）（二）」の現物に他ならない。筑摩版全集の7巻の「解題」には、次のようにある。

現在原稿の所在不明。岩波版九冊本全集第五巻四〇〇～四二六ページに従う。明治四十一年に二葉亭が大阪朝日に打電した電報の控。岩波版の解題によれば、（一）は二葉亭自筆の露文より翻訳、（二）は日本語でところどころ露文が挿入されているという。内容は本全集第六巻「手帳」二十四、二十五の打電メモに照応し、その電文を伝えている。

初めに、書誌的事項について記す。

二葉亭四迷日記 2冊

A 茶マーブル模様紙堅表紙ノート 図書館請求記号 ヌ06 09355-1
ペン書き 22×15cm 全192ページ 木村毅旧蔵

表見返しに木村毅の次の識語の紙片の添付あり

二葉亭四迷の露都滞在時代の露文日記

元の学生清水三三氏がロシヤ留学せし時与えしもの

一冊のみ出品 木村毅出品

B 茶マール模様紙堅表紙ノート 図書館請求記号 ヌ06 09355-2

ペン書き 22×15cm 全192ページ 木村毅旧蔵

表見返しに木村毅の次の識語の紙片の添付あり

二葉亭四迷がロシヤ特派員として朝日新聞に打った電報の控え

(二葉亭がロシヤ時代に使用した手帖)

二冊ノ中の一 木村毅出品

この資料は、初め岩波書店版『二葉亭四迷全集』(全16巻+案内)の第10巻(昭和28・12)の「ロシア事情」としてまとめられた文献の部分に収められていたもので、それがそのまま9巻本『二葉亭四迷全集』第5巻(昭和40・1)にも収録されていた。長く現物が見つからなかったものである。今回それが木村毅旧蔵であることが判明、縁あって本学図書館の所蔵となった。全集解題には記載がないが、この資料については、木村毅『愛蔵本物語』(古通豆本31、昭和52・10、日本古書通信社)の「七 二葉亭の滞露ノート」にすでに言及されていた。木村毅は、「私の手もとはには、二葉亭がロシア滞在中のノートが3冊ある」とし、次のように書く。旧蔵者による基本的な説明なので、紹介する。

一冊はロシヤから朝日新聞に打った電報文を書きとめておいたもので、日本文。——主としてロシヤを中心に、諸隣国の政状に意をとめて、トルストイなどまだ健在だったのに、訪ねようともせず、意にも留めず、この電文を見たら、これが小説家としては明治第一の巨腕なる二葉亭の手になったものとは思えない位だ。彼の反文学的気分が、紙面に噴湧していて、どことなく人物の大きさを思わせる。

もう一冊はロシア文の日記。残る一冊はやはり、ロシア文で何かのメモ。

この最初の一冊というのが、今回の「日記B」であり、「もう一冊」というのが、「日記A」である。残念ながら、「残る一冊」というのは実態が明らかでない。木村毅は、それに続けて、資料の由来を次のように書く。

どうしてこれが私の手もとにあるのか。正直に白状すると、清水三三氏から、譲られたわけではなく、只とどけられた、私の手もとにあれば、最も安全で、最も有効に活用せられるとでも、考えた上でのことらしい。

清水氏は二葉亭がおしえたころの外国語学校出身。卒業すると、日露戦争で通訳に徴用せられて、乃木大将の第三軍に配属せられ、旅順の攻囲戦に従軍した。(中略)

旧師の二葉亭が、朝日新聞の通信員として、ペテルブルグへ乗りこんで来たので、(*文部省から留学の命を受けてロシアに滞在していた)清水氏はよろこんで案内役をつとめた。

間もなく二葉亭は、健康を害して、寝つくことになった。清水氏は、ほとんど毎日のように見舞いにゆくと、この「文学は男子一生の事業となすに足る乎」と壮語していた豪傑も、気が弱くなって

「このノートは君にやろう。まだ白紙のままのところがたくさんあるから、もって帰って勉強につかい給え」

と、まるで小学生に対するような事を云って与えてくれたのである。二葉亭が病気はなおらず、日本に帰ることになった時、蹠踉蹠蹠として船にのるまで、面倒をみた。

その後、木村毅は、昭和10年頃、ハルビン学園の校長になった清水三三と知り合い、いろいろと話を聞いたという。そして、次のようにある。

ある時、東京へ留学して日本女子大学に入って、国文をおさめている令嬢が、氏の紹介状をもって私を訪問して、明治文学の教を乞いたいと云う。その頃は、明治文学はまだ一科の学問たる形態をなしていない前である。それと共に「これは父からことずかりました」と言われて差出されて、爾来、この天下に又となき無価宝は、私の書棚におさまる事になったのである。

やや物語風な記述だが、資料の由来の概略は理解出来よう。その公開に關しては、木村毅の文に、「このうちのノート二冊は、ある男が私の家から借り出して行って、無断でロシア文は日本文に訳して、始め改造社の「文芸」にかかげ、それが岩波の全集にも、元より私にことわらず（岩波ではおそらくこれが私の珍藏品であることを知らなかったろう）収録している」とあるのに注意したい。ただし、改造社の「文芸」を調査したが、まだこの文献を確認出来ていない。記憶の誤りがあるのであろうか。ともあれ、岩波書店版9巻本『二葉亭四迷全集』に収録された折、収録巻の第5巻の「解説」に「露文の部分は編集部で翻訳したもの」という記載がなされていることを記しておきたい。

今回の翻刻は、初めての現物からの忠実な翻刻を目指すものであり、部分的に従来の翻刻を正すことも出来た。なお、以下の点を考慮した。

- ① ロシア語については原文を掲げ、そのあとに〔 〕でその翻訳を示した。ロシア語については、現行の正書法を用いた。（ ）内は二葉亭の衍字または誤記と思われるもの。その数はきわめて少なく、二葉亭のロシア語表記の丁寧さを知るに足る。〔 〕内は源による補訂。それ以外に、一般に筆記体では不明瞭になりがちな語尾について、綴りを補った箇所がある。人名の一部については正しい表記の確証が得られない。翻訳については、とくに必要な場合をのぞき、岩波版全集の訳を踏襲した。日記の日付は露暦と新暦が併記されている。露暦は新暦より13日遅れる。

- ② 用字については、新字のあるものは新字を用いた。
- ③ 日本語文中の[]も、脱字を補った箇所である。
- ④ 翻刻の体裁など、現物になるべく忠実になるよう配慮した。横組みに組んだのも、そのためである。

なお、この資料は、近く、早稲田大学図書館のホームページからアクセス出来る「古典籍総合データベース」に収録され、館蔵の他の二葉亭の日記と共に、その画像を閲覧出来るようになる予定である。

今回の翻刻は、ロシア語の部分は源貴志が担当し、日本文の部分は宗像和重・中島国彦が担当した。解題は中島国彦が執筆し、全てにわたり、全員で確認し合った。

【二葉亭四迷日記 A】

【1～4頁白紙】

【5頁】

Август〔八月〕

【6～9頁白紙】

【10頁】

6(19)〔十九日（六日）〕

Закончились морские маневры
〔海軍機動演習終了。〕

【11頁】

7(20)〔二十日（七日）〕

Турецкий посол (Гусни-паша)

уехал.

〔トルコ大使（グスニパシャ）去る。〕

Г. Извольский уехал за границу.

〔イズヴォリスキー氏国外旅行。〕

【12頁】

8(21) 〔二十一日（八日）〕

Вечером на «Алмазе» прибудет г.

Столыпин.

〔今夕、アルマズ号にてストレイピン氏到着せん。〕

（Утром прибыл）

〔（今朝到着）。〕

Извольский прибыл в Карлсбад

〔イズヴォリスキー氏、カルルスバード到着。〕

【13頁】

9(22) 〔二十二日（九日）〕

В адмиралтейств-совете на совещании будет рассмотрен вопрос о 4-х броненосцах

〔海軍省内会議にて四戦艦問題討議か。〕

【14頁】

10 〔（十日）〕

【15頁】

11 [(十一日)]

【16頁】

12(25) [二十五日 (十二日)]

Международная мебельная выставка

откроется в 3 ч. пополудни. Вход

для публики с 6 веч. до 12 ночи.

[国際家具展覧会、午後三時より開催。一般公開は午後六時より同十二時迄。]

【17頁】

13(26) [二十六日 (十三日)]

В ресторане «Медведь» банкет[.]

данный ком(м)итетом х(о)[у]дож.-пром. Вы-

ставки мебели экспонентам.

[家具工芸展覧会委員主催の出品者招待晩餐会。レストラン「熊」にて。]

В квартире морск. министр. совещани(и)[e] о предстоящих преобразованиях

морского ведомства. Это первое

заседание

[海軍軍令部宿舎に於て、懸案の海軍省改革評議会。これは第一回会議。]

【18頁】

14(27) [二十七日 (十四日)]

Корпусные маневры затянутся

до сегодня.

〔軍団機動演習は本日まで延引。〕

【19頁】

15(28)〔二十八日（十五日）〕

【20頁】

16(29)〔二十九日（十六日）〕

Возвращается Коковцев.

〔ココフツェフ帰還。〕

Второе заседание по вопросу о
преобразования в морском ведомстве.
〔海軍省改革問題について第二回会議。〕

【21頁】

17(30)〔三十日（十七日）〕

Новый турецкий посол Турхан-
паша приезжает в Петербург по Вар-
шавск. дор. в 9 ½ ч. утра.

〔トルコ新ロシア大使トルハンパシャ、ワルシャワ經由にてベテルブルク
着。今朝九時半。〕

【22頁】

18/31 августа〔三十一日（十八日）〕

【23頁】

19 августа / 1 сентября〔九月一日（八月十九日）〕

【24頁】

20 VIII / 2 IX [九月二日 (八月二十日)]

Морской министр уезжает в

отпуск около 20-го

[海軍大臣、二十日頃賜暇か。]

【25頁】

21 августа / 3 сентября [九月三日 (八月二十一日)]

【26頁】

22 4 [四日 (二十二日)]

【27頁】

23 [(二十三日)]

【28頁】

24 [(二十四日)]

【29頁】

25 [(二十五日)]

【30頁】

26 [(二十六日)]

【31頁】

27 [(二十七日)]

【32頁】

28 [(二十八日)]

Юбилей гр. Толстого.

〔トルストイ伯生誕記念祭。〕

【33頁】

29 [(二十九日)]

【34頁】

30 [(三十日)]

【35頁】

31 [(三十一日)]

【36頁】

1 сентября [(九月一日)]

【37頁】

2 сентября [(九月二日)]

【38頁】

3 [(三日)]

【39頁】

4 [(四日)]

【40頁】

5 [(五日)]

【41頁】

6 [(六日)]

【42頁】

7 [(七日)]

【43頁】

8 [(八日)]

【44～45頁白紙】

【46頁】

9 [(九日)]

【47頁】

10 [(十日)]

【48頁】

11 [(十一日)]

【49頁】

12 [(十二日)]

【50頁】

13 [(十三日)]

【51頁】

14 [(十四日)]

【52頁】

15 [(十五日)]

【53頁】

16 [(十六日)]

【54頁】

17 [(十七日)]

【55頁】

18 [(十八日)]

【56頁】

19 [(十九日)]

【57頁】

20 [(二十日)]

【58頁】

21 [(二十一日)]

【59頁】

22 [(二十二日)]

【60頁】

23 [(二十三日)]

【61頁】

24 [(二十四日)]

【62頁】

25 [(二十五日)]

【63頁】

26 сентября / 9 октября [(十月九日 (九月二十六日))]

Албания объявила себя не-
зависимой
〔アルバニア独立宣言。〕

【64頁】

27 сент. / 10 окт. Пятница [(十月十日 (九月二十七日) 金曜)]

Турецкая нога получен
русским правительством
〔ロシア政府、トルコの覚書を受領。〕

【65頁】

28 сент. / 11 окт. Суббота [(十月十一日 (九月二十八日) 土曜)]

Извольский прибудет в
Лондон
〔イズヴォリスキー氏、ロンドンに到着せん。〕

Сербская скупщина будет
открыта.
〔セルビア議会開会。〕

【66頁】

29 сент. / 12 окт. Воскресенье〔十月十二日（九月二十九日）日曜〕

Совещание Извольского с

Греем

〔イズヴォリスキー、グレー会談。〕

【67頁】

30 сентября / 13 октября понедельник

〔十月十三日（九月三十日）月曜〕

Извольский будет принят

Эдуардом.

〔エドワード、イズヴォリスキー氏を引見せん。〕

【68頁】

1 октября / 14〔十四日（十月一日）〕

【69頁】

2 / 15 октября〔十月十五日（二日）〕

【70頁】

3 / 16 октября〔十月十六日（三日）〕

【71頁】

4 / 17 октября〔十月十七日（四日）〕

【72頁】

5 / 18〔十八日（五日）〕

【73頁】

6 / 19 [十九日 (六日)]

【74頁】

7 / 20 [二十日 (七日)]

【75頁】

8 / 21 [二十一日 (八日)]

【76頁】

9 / 22 [二十二日 (九日)]

Извольский прибует в

Берлин

[イズヴォリスキー氏、ベルリンに到着せん。]

【77頁】

10 / 23 октября [二十三日 (十日)]

Состоится съезд генерал-

губернаторов

[高級知事会議召集さる。]

【78～81頁白紙】

【82頁】

15 / 28 октября [二十八日 (十五日)]

Извольский прибует в

Петербург

[イズヴォリスキー氏、ペテルブルクに到着せん。]

【83頁白紙】

【84頁】

17 / 30 октября [三十日 (十七日)]

Русская циркулярная
нота будет разослана
державам.

[ロシア、列強政府に覚書を送付せん。]

【以下白紙】

【二葉亭四迷日記 B】

【見返しに縦書き】

浦港特別市制ノ件 浦港經由 13 слов [語] 一留四十五哥

午後六時四十五分

サガレン画界条約 浦港經由 午後六時半打電

八語 九十五錢

【1～11頁白紙】

【12頁】

八月一日午前十時三十分 大阪

小村伯着 (大) 16 words 20.96

四日午後十一時

小村伯出發 (大) 12 w. 15.72

五日 芬蘭議會 (哈) 54 w. 9.33

十二日 土耳其大使帰国 (大)

10 w. = 13—10

【13頁】

7(20日曆) августа [八月二十日(七日)], в 10 ч. веч. [夜十時]

В Осаку [大阪へ]

24/VIII 外相出遊

Извольский [イズヴォリスキー] 一ヶ月の賜暇を得19夕
伯林へ向け出発 Бюлов [ビュロフ] と会見後 Эрен-
тал [エレントル] とも会見すべし (14 слов [語])

В Владивосток [ヴラディヴォストクへ]

高加索太守領廢止

22/VIII 高加索太守領廢せられ民政長官置かる可し

該長官の候補としては Кропаткин [クロパトキン]、Шельнер [シェ-
リネル]、Заковский [ザコフスキー] の呼声尤も高し (16 слов [語])

海軍大演習の結果

24/VIII 過日数日間芬蘭湾にて施行されたる海軍

大演習は波羅的艦隊の大部参加し総艦
数十隻と称す日露戦役にて名ある Эссен [エッセン]、
Рейценштейн [レイツェンシュテイン]、Щенснович [シチェンスノ-
ヴィチ] 等参加せり
成績は調査中なるが潜航艇は潜水前
に撃沈の虞ありて効力少なく水雷艇隊も
余り役に立たず Рейценштейн [レイツェンシュテイン] 部隊か Щен-
снович [シチェンスノヴィチ] 部隊を破りたるは大軍艦の力なり
と云ふ臨検の海軍大臣は既に帰京職務に就く

(В Харбин [ハルビンへ]) 45 слов [語]

【14頁】

11/24 августа〔八月二十四日（十一日）〕

В Осаку〔大阪へ〕

26/8 陸軍大臣辞職内定候補者侍従大

将 Иванов〔イヴァノフ〕現次官 Поливанов〔ポリヴァノフ〕

10 слов〔語〕

国際室内装飾品博覧会

27/8 25ミハエルマネージにて国際室内

装飾品博覧会開会日本部出品未着

何も陳列せず台湾喫茶店のみ不日開

店の筈 18 слов〔語〕 25日午前八時

二十四分

d 海軍将官会議（第一回）

21/8 二十六前10後五まで海軍大臣議長

として将官会議あり侍従大将 Зубасов〔ズバソフ〕

大将 Налкин〔ナルキン〕 Верховский〔ヴェルホフスキー〕 Нилов〔ニ
ロフ〕

Эссен〔エッセン〕少将 Скрыдлов〔スクルイドロフ〕 Гильтебранд〔ギ
リテブランド〕

海軍次官 Воеводский〔ヴォエヴォツキー〕 軍令部長 Эбер-
гард〔エベルガルド〕 前海相 Авелан〔アヴェラン〕等有名の

海将大抵参列 予備会議故海軍

省官制ニ付熱心ナル意見の交換ありたれと

【15頁】

何等の決議に至らず 次回は29 каи-

Кай〔開会〕黒海艦隊司令長官 Вирен〔ヴィレン〕出

席すへし閉会は十月中旬の予定

57 слов〔語〕(二十七日午前八時十五分哈爾賓へ)

e 黒龍鉄道

29/8 技師技手100中部黒龍江鉄道へ出発

10 слов〔語〕(二十七日浦港へ)

a 那威王来朝説

29/8 那威王来朝ノ説あり

6 слов〔語〕(二十七日大阪)

八月卅一日

三重丸乗込員控訴棄却

g 三重丸乗込員控訴棄却シカシ助命

の余地あり 29日午後2時10分

11 слов〔語〕(二十九大阪)

c 大臣会議

31/8 昨日の大臣会議に於て内務大臣に沿海州サ

ガレン行政改革案、沿海州警察拡張

朝鮮人移住制限諸案の起草を

【16頁】

Якутск〔ヤクツク〕 Охотск〔オホツク〕

電線架設費予算編成 Петропавло-

вск〔ペトロパヴロフスク〕 Николаевск〔ニコラフスク〕 無線電信設置

Петропавловск〔ペトロパヴロフスク〕 Охотск〔オホツク〕 電信線

路踏査を商工大臣に1901六月

17沿海州サカレン沿岸100ウォルスト

鉱山業禁止法廃止 Петропавловск〔ペトロパヴロフスク〕

Нижне-Колымек〔ニジュネ＝コルイメク〕定期航海開通を
委任せり

45 слов〔語〕(二十七浦港へ)

f 潜航艇黒海廻航

? 黒海にて幹部編成の為若干の潜航

艇 Либава〔リバヴァ〕より Севастополь〔セヴァストポリ〕派遣

波羅的太平洋両艦隊用潜航艇

新規注文出つ

19 слов〔語〕 (二十七日午後八時十五分
ハルビンへ)

h 本邦大使館参事官新任外務一局次長

31/8 カネア駐在総領事 Броневский〔ブロネフスキー〕本邦

【17頁】

大使館参事官に京城総

領事 Плансон〔プランソン〕外務省第一局次

長に任せられたり

14 слов〔語〕(二十九日午後二時十分大阪へ)

陸軍演習 b

29/8 Красное село〔クロスノエ・セロ〕附近の陸軍

大演習27終る

二十七日に終りたるなり(二十七日大阪へ)

9 слов〔語〕

i 日露聯絡諮問会

- 1/9 日露鉄道聯絡ノ為本邦汽船会社
と契約を結ふニ付露国各鉄道代表者
を召集臨時會議開かるへし

16 слов〔語〕 (三十日午後七時大阪へ)

j 土耳其大使来着

- 2/9 新任土耳其大使 Турхон паша〔トゥルホン・パシヤ〕来着

9 слов〔語〕 (三十一日浦港)

【18頁】

1) 戒嚴令撤去の説

全国を通して戒嚴令撤去の議あり

多分十月28発表 11 слов〔語〕

В Осака〔大阪へ〕 2 сентября〔九月〕、6.25 веч.〔午後〕

2) 烏港特別市制 13 слов〔語〕(浦)

九月三日午後六時四十分

教務院対トルストイ

教務院は正教徒のト伯八十賀

に賛同スルを公然非認し物議を惹

起せり

モスコウ、オステンド、パリ間急行列車

毎土曜モスコウ、オステンド、パリ間急行列

車運転開カントス乗易ハワルソ

ウ外ニナシ

26 слов〔語〕(以上二件 九月五日午後六
時五十分 浦港經由打電)

板谷氏着

板谷氏9夜着歐羅巴ホテル
投宿滞在中総理外相帝国
露清等の総裁を訪問16出発十

【19頁】

月下旬東京着ノ予定

27 слов〔語〕(九月十日午前
十一時四十五分哈爾賓
經由打電)

九月十六日掲載 非常ノ延着

杜伯八十賀二つき

教務院圧迫を加へた為本日の
杜伯八十賀は殊に政治的色彩を帯
ひ祝電ヤースナヤポリヤーナに輻輳
し盛況を極めたりストルイピンが
敢て此文豪の寿を祝するを非とせず
唯之に托し政治的示威運動を
為すを非とせるは暗に教務院の措
置を非難せる観あり政府部内ニ
激流の暗闘刻々急調を帶來ル
如し

46 слов〔語〕 (九月十日午後
十時哈爾賓經由打電)
九月十五日掲載 ハルビン電報

トシテ非常ノ延着

樺太画界条約発表

樺太画界条約発表セラル

8 слов〔語〕 九月十一日打電
十三日掲載

【20頁】

反動派勃興

戒嚴令延長

噂に反し諸地方の戒嚴令特別

警備令尚一年間延長反動派ノ勢力

膨張の結果

16 слов〔語〕 (九月十四日浦港經由
午後三時四十分打)
九月十六日掲載

板谷氏発程

板谷氏一行只今発程

7 слов〔語〕 (九月十四日哈爾賓経〔由〕
午後十一時打電)

九月十八日哈爾賓電トシテ掲載

1 セルウキア王子入京

セルウキア王子幼年学校入学ノ
為 九月十六日掲載

2 オデッサ総督入京

大学教授を免黜して物議を惹起
したるオデッサ総督 Толшачев〔トルシャチェフ〕弁解
の為いつれも入京

九月十六日掲載

【21頁】

3 英仏との新協商

外相外遊ノ結果英仏と新協
商結はるへし 九月十六日掲載

4 教務院と内閣

教務院の杜伯迫害訓令は内
閣と打合なく発表したるものにて
閣員中憤懣の声を漏すものあり
九月十六日掲載

41 слово〔語〕 (以上四件 九月十四日
午後八時打電 浦港経
由)

国事犯人逮捕ノ件

数日前ヨリ国事犯ノ嫌疑にて逮
捕せらるゝもの数名あり一五午前
中又憲兵の手にて府内処々大検挙
数名捕縛多数ノ武器秘密出版
物等押収これにて革命派の或計画
大頓挫を来せるやに云ふ者あり

32 слова〔語〕 (九月十五日午後七時
浦港經由打電)

【22頁】

鉄道複線工事

西伯利鉄道複線工事費査定ノ

為委員会開かれたり工事は omsk achinsk Ачинск〔アチンスク〕
Иркутск〔イルクツク〕の二区に分ち来春
ヨリ着手技師 Ивановский〔イヴァノフスキー〕 Будаков〔ブダコフ〕
それぞれ工事を担任すべし

28 слов〔語〕 (九月十八日午後四時浦港
經由打電)

九月廿二日掲載

露国政界ノ暗闘

プールスガゼット所報 従来反動
派は Извольский〔イズヴォリスキー〕の行動余り立憲的
〔なるに〕嫌たらず之を倒さむとし運動昨今
土耳其波斯政変同情と言立
て大攻撃外相ノ地位危し後任者
呼声高きは Витте〔ウキッテ〕政府ハ反対
云々先頃 Витте〔ウキッテ〕反動派に同
情と風説 Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕の Меньш-
ков〔メニシコフ〕切りに伯に秋波を送る是等
に徴し此風説根拠ある如し

五十6語 (九月十八日午後

【23頁】

八時浦港經由打電)

九月廿一日掲載

ウ伯入閣説

ウキッテ入閣説 宮中ノ親独
逸策関聯ある如し或は外債募
集上の都合もあらんといふ閣員の
多数ハ反対実行は一寸困難

23 слов〔語〕（九月十九日午後三時ころ
浦港經由）
九月廿一日本紙掲載

死亡捕虜改葬祭ノ件

九月廿八日 67 слов〔語〕 午前十一時半
頃 Медведь〔メドヴェヂ〕ヨリ打電
九月三十日掲載

Шванебах〔シヴァネバハ〕逝去

1/x 参議院議員 Шванебах〔シヴァネバハ〕逝去
曾て農務大臣会計検査院長歴任右
党領袖中尤も辣腕家 Витте〔ウキツテ〕
眼上ノ瘤取れたり

21 слов〔語〕（九月 16/29
浦港經由 午後七時
半打電）

【24頁】

装飾品博覧会日本部開始

1/x 装飾品博覧会日本部開始
セリ 8 слов〔語〕（九月16/29 午後七時
四十分浦港經由）

彼得堡大学閉鎖ノ件

彼得堡大学生文相ノ反動的
施設ニ憤慨シ昨夜集会大多数
ヲ以テストライキ議決其為同大学ハ今
朝当分閉鎖セラル他ノ官立学

校も同シク動揺頓て大騒動
起ラン模様

29 слов [語] (十月
三日浦港經由打電 午後四時
頃)

- 1) 大学ストラ [イ] キ後報
- 9/ x 文相大学閉鎖を不当トシ授
業開始命セシモ大学評議員会
不承諾強て事後承諾ヲ求ム
莫斯科大学生ストライキ議決シカシ

【25頁】

未だ実行セス

- 2) 秘密出版所発覚
- 9/ x 府内ニテ社会民主党秘密出版所
2 発覚 8 捕縛

- 3) 外務省ノ打消
- 9/ x 外務省露国カ Austria ノボスニヤ
ヘルツェ合併ニ同意ノ風説ヲ公然
打消セリ

- 4) 輿論
- 9/ x слово [言論] 欧州外交界に於ける露
国ノ権勢地ニ墜ちたるを歎し皆
政府カ内治改良ノ意ナク民心離叛

ノ結果ト敦圀ク御用新聞顧ミテ他

ヲ云フ（カネナクナツタノム）

71 слово〔語〕 以上四件十月七日午後九

時浦港經由發電

【26頁】

ストライキ鎮圧手段

10/x 彼得堡莫斯科の外 Киев〔キエフ〕、Юриев〔ユリエフ〕

等の大学生のストライキ起り全国の高

等学校続々其の響みに倣はんとし形勢

頗る不穩此際威圧は不得策と大

学当局者は警告するに拘らず政府

は断然高压手段を取り既ニストライキ

起せる学校の教授には講義の繼

続を命し若妨害する者ある時ハ警察

力を以て制止するに決し其の旨発表

バルカン問題と半官報

10/x 半官報 Rossia は外相が Temps 記

者に語れると同じ口調にてバルカン

問題を解決するには列国会議を開

き伯林条約を再議する外なしと論

ぜり

（以上二件 76 слов〔語〕

十月八日午後八時浦港経

由打電）

【27頁】

列国会議と露国（11 oct. 烏港電報トシテ掲）

11/x 列国へ通牒発送ノ日取

外務省は七日巴里 Извольский [イズヴォリスキー] へ

列国会議開催通牒案を送れり

公然関係各国へ発送するは外相が

十日英皇帝に謁見後ナルベシ

バルガリヤ独立不承認

? ソフィヤ駐在官にはバルガリヤ政府

に対し独立宣言前の態度を維持スベ

シト訓電せり

ミシチエンコ狙撃サル

11/x General Мищенко [ミシチエンコ]、Асхабад [アスハバド]

附近にて対抗演習見分ノ際狙撃

され足部に軽傷を負へり

（以上三件 45 слов [語] 十月

九日午後五時十五分浦港経

由打電）

11 oct 烏港電報トシテ掲載

【28頁】

露国大学閉鎖

彼得堡大学再開鎖

18/x 彼得堡大学ハ曩に政府の厳命ニ

依り一旦止むを得ず開校せしも昨日

学生大会に於てストライキ維持説の

学生と反動派に使嗾せられて之に
反対せる学生との間に衝突あり為
に負傷者を出し出張の警官は既
に警察力に訴へんとせしを大学
当局者の苦心に依り其事なくて
事済みたり併し此分にて講義を
継続する時は如何なる珍事を
惹起すも知れざるを以て同大
学総長心得は又又当分閉鎖に
決し今十六日新聞にて其旨発表
せり

73 слов [語] (十月十六日午後九時
浦港經由打電)

十月十八日掲載

【29頁】

強制開校

彼得堡大学再開校

21/x 彼得堡大学は16騒動後閉

鎖中ノ処政府の圧迫により今19

又々開校

ミ將軍へ親電

Мищенко [ミシチェンコ] へ御見舞

21/x 皇帝は負傷せる Мищенко [ミシチェンコ] へ

見舞の電報を送れり

塙土特別談判

奥匈国の特別談〔判〕

21/x 奥匈国は土耳其と特別談判
を開き若し土耳其にてボスニヤヘル
ツェゴウキナの合併を承認せば奥匈国
は必ず Bulgaria 維持の意なく万一
同国と開戦の場合には好意的中
立を守るべく又巨額の公債担保
をも辞せすと申込みりとの説当
地に説はる

58 слов〔語〕（以上三件十月十
九日午後七時十分浦港經由）

【30頁】

重大ナル使命

モンテネグロ特使入京

25/x Черногория〔チェルノゴリヤ〕上院議員 Miushkowitz
外相と会見の為今廿三日入京氏ハ曾て
内閣総理外相蔵相たりし事ある同
国有数の政治家にして今度は重大ノ
使命を帯ひ国王の親書をも携へ居
れりと

25/x 尚 Сербия〔セルビヤ〕前内閣総理 Pashitch

も来る廿五来京ノ筈

40 слов〔語〕

（以上二件十月廿三日午
後八時五分打電）

モンテネグロ特使接見

28/x Montenegro 特使 Миушков [ミウシコヴィチ] 25

外相代 Чарыков [チャルィコフ] 訪問 Monte は

露国か列国会議に於て飽迄強硬ノ

意見を執るか今直ちに進んで干渉

するか又は総て自然の成行に任せ

【31頁】

傍観するか三者其一に出てむことを

希望する旨を述べしに外相代此

問題には英仏露伊四国の利益

一致点を看出すこと必ず不可能と

いふべからず随て来る列国会議は左程

悲観すべきものならず [と] 述べたり

58 слов [語]

(十月廿六日午後四

時四十分浦港經由)

伯林談判ノ経過

? 政府の機関なる彼得堡電報

通信社の發したる通信に拠れば

外相か伯林に於て Bulow Schoen

と会見の結果独逸政府ハ主義として

列国会議の召集に反対せざるも予め

會議に付すべき議案の範圍内容に

関し列国の意見十分に一致するに

非ずんは會議を開くも無効との

意見を取ることを確め得たり而

して独逸は奥匈国か反対するヶ条に

【32頁】

は賛成する能はずと主張
するか故に此等の点に付ては更に協
議を要するも其他は格別の異議
なく殊に土耳其の利益の為にせ
る提案には賛成を表せりと

75 слов〔語〕（十月廿七日午後九時半
浦港經由）

議会開会

30/x 第三 Дума〔国会〕第二期會議は28
開会 劈頭立憲民主党首領株
Маклоков〔マクロコフ〕首唱者となり
政府反対党は勿
論十月黨議員まで賛成し27彼
得堡某會堂にて開きし近東問題
公開演説に警察か不法の干渉
を為せし件に付内相に対する質問
案を緊急動議として提出直ち
に採用次て質問案の討議に
移り是亦一人の反対演説を為
す者なく可決閉会參議院も

【33頁】

新築議場開場式後開会
格別の議事なく閉会

塞爾維皇太子入京

30/x 塞爾維皇太子二十八入京

同国老政家 Пашич〔パシチ〕随行
当地駐在官 Попович〔ポポヴィチ〕途中
迄出迎ふ在留塞爾維人停車
場にて歓迎せんとせしを政府
は時宜に適せずとして
差留めたる為物議を起し是亦
議會の一問題たらむとする形
勢なり

外相帰京

30/x Извольский〔イズヴォリスキー〕berlinにて Но-
вое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕記者に語りたる中に
幸には我国には議會のあるあり
余は陛下の御裁可を得懸て
春演壇に立ち余か近東
政府を^{ママ}発表し是非を輿論に

【34頁】

問はむの語あり反対党は此語
を以て立憲大臣の体を得たるものと
し歓迎したるも反働派は痛く
激昂し為に一旦御裁可にな
りし政策発表も中止せざるを得さ
る勢となりしゆゑ氏は立場を失
ひ辞職すべしとさへ風説す
氏は28午前帰京せしか出迎

へしは外務省書記官二名のみ

以上三件 183 слова〔語〕
(十月廿八日午後十時浦
港経由打電)

塞爾維国会救援を求む

31/x 塞爾維国会は Дума〔国会〕へ電報
を送り露国か奥国の Босния〔ボスニヤ〕
Герцеговина〔ヘルツェゴヴィナ〕合併を非認し
以て塞爾維人の危急を救は
むことを切望し最後に若し
自由の為に殫るゝか我等の運命

【35頁】

ならば我等は敢て一死を辞せずと
痛言せり

塞爾維特使の公言

31/x 同国特使 Пашич〔パシチ〕往訪の新
聞記者に対し塞爾維は列強の勸
告に従ひ現に慎重の態度を取り
居るも若し国際条約の信す
るに足らず列強の竟に不義に与
みするを看取せば我等は自由の行動
を取りて自衛の道を講ずる外なしと
明言せり

塞爾維太子謁見

31/x 特使は29 Извольский [イズヴォリスキー] と会見
後太子に従ひ謁見の為 Петер-
гоф [ペテルゴフ] へ赴けり外相も同車せり

以上三件 80 слов [語]

(十月廿九日午後八時四十五分
浦港經由打電)

【36頁】

室内装飾品博覧会閉会

室内装飾品博覧会 1 限り

閉会

塞爾維太子出発

塞爾維太子 1 謁見 2 出

発帰国 特使 Пашич [パシチ] 当分

滞京

露国議會ノ答電

議會は議長 Хомяков [ホミャコフ] 名義

にて Serbia 議會に答電を送れり

中に現下の國際問題は吾人を

始め全スラーウ民族の動揺を惹

起せしも之を穩便に解決スルハ

スラーヴの将来を安全にする所

以と信ずの語あり

以上三件 49 слов〔語〕

(十一月二日午後五時十分打電)

【37頁】

政策激変

反動派躍起運動の結果両三日來
近東問題に関する政府の態度急に
一変しボスニヤヘルツェゴウキナ合併不
承認に決せりとの説専ら行はれしが
昨一日ペテルゴーフに赴き謁見せし
塞爾維特使 Пашич〔パシチ〕は帰來其使命
を辱しめざりしとて喜色満面
といふ者あり本日の議会にても専其噂
あり又本日の維也納來電に同地
にても露国が列国会議召集を断
念したる風説あり此上は露国は単に
ボスニヤヘルツェゴウキナ合併不承認
の通牒を發し行動の自動を保留し
当分形勢を觀望すべしと觀測せ
らる

75 слов〔語〕(十一月

二日午後十一時五十分)

塙大使謁見

塙国大使 Ветхальдь〔ヴェトハリヂ〕氏二日
正午謁見の為 Петергоф〔ペテルゴフ〕へ
赴ク帰任後始ての謁見也

【38頁】

塞爾維太子出發公報

政府の機関彼得堡電報通

信社の發したる通信 塞爾維

太子は昨日出發せられたり太子の

來朝は予期の如く毫も公の性質を

帯ひす特使 Пашич〔パシチ〕は当分滯京

すべし太子は滯京中露国政府か

十分に塞爾維に同情し無形の後

援を与ふるに躊躇せざることを看

取せられたるならんそれとても塞

爾維人の行動慎重を欠き輕挙

妄動せは露国の後援を必とすべ

からすこは太子を始め特使にも十

分に領會したる所なるべきか政府

は公使を通じてベルグラー政府

にも知照したり塞爾維人の苦境

に同情することは国民も政府に同

じ其輕挙を戒めて慎重の態度を

守らんことを勧告することも亦政

府に同じ Duma 議長より塞爾

維議長に宛てたる答電中に

【39頁】

現下の葛藤を穩便に解決するは

スラーヴの将来を安全にする所以と

あるは正に輿論の反響なり外

相か奥国政府と開ける談判は

著々進行中也

本日の天長節は午前十一時一同大使館に
集り遙拝式午後二時勅使 Вест-
ман〔ヴェストマン〕来館今夜九時夜会

133 слова〔語〕(十一月三日
午後二時五十五分打電)

海軍将官大淘汰

海軍将官大淘汰 中将4 少将9
免職日露戦役にて有名の Stark
Нидермилер〔ニデルミレル〕、Лощинский〔ロシチンスキー〕、
Вирениус〔ヴィレニウス〕、
等の名も其中に見えたり
大阪商船側通訳引受ケル

24 слова〔語〕(十月六日午後七時半)

(十月五日午後八時半頃大阪本社へ大阪
商船側通訳ノ件答電を發ス此語数
但浦港經由 17 слов〔語〕

【40頁】

列国会議と三国

15/XI 列国会議召集の勧告

今一二君士但丁發電 土耳其ブル
ガリヤ直接談判着々進行唯賠償
金額に付双方の意見一致せざる迄にて
重なる点は不日妥協の見込あるニ

付英仏露三国大使は此際両国
主唱して巴爾幹問題列国会議
を召集するも太早計ならずと申告せ
り

15/XI 伊国ノ態度 伊帝ノ意見

維也納發電 伊国皇帝は奥
国皇帝への答翰に伊国は奥国の
ホスニヤヘルツェゴウキナ合併を是認
するか故に曾て三国同盟に背くの
意なし列国会議は唯合併を是認
する迄^{ママ}まで此既成の事実を議するの
權威なしと記されたり併し当地
にては半官報の報道故信用せず

【41頁】

伊帝ノ意見ノ中ニ紛レ込ム

英仏の調停

巴里電

英仏両政府は会議の上夫々役
割を定め英国は専ら土耳其ブル
ガリヤ間を仏国は Austria Servia
間を調停するに決し既に仏国は
其運動を始塞爾維政府大に之
に囑望し居れりと

君士但丁發電

15/XI 奥土談判再開すへきか？

奥国大使は土耳其首相と会見の際
ホスニヤ ヘルツェゴウキナ問題を列国

会議に付するを峻拒せし故土耳
其首相は奥国と談判を再開す
る意なしとの説昨日来同地に専ら行は
る
(こんな電報にてよくは毎日打てる
如何)

以上四件 153 слова〔語〕
(十一月十二日午後八時二十分打)

【42頁】

Bulow 侯進退如何

13 berlin 發電 bulow 明日

Дауемен〔ダウエメン〕?に赴き謁見政界の現
状を奏上

すべし其結

果にて侯の進退も決すべし議会の

下馬評にては外相代理 fon K……

の議会に於ける演説後侯は到底

辭職せざるを得ざるべしと内閣

は現状を奏上し如何にかして民心

を安するの必要することを苦言する

委任を侯に与へたるなれと侯は

此委任に負かざるべきやと掛

念する者少からず

59 слов〔語〕(十一月十三日午後
九時四十五分)

【43頁】

16/XI 正副議長改選

一四 дума 正副議長改選

労働党社会民主党多数党の専横
を怒り投票権棄権立憲民主党も
棄権するせぬにて内端揉めあり
しが結局選挙に加はれり
結果は予期通り現在の正副
議長いつれも再選

33 слова [語] (十一月十四日午後八時半)

17/XI 太公薨去

Алексей Александрович [アレクセイ・アレクサンドロヴィチ] 太公

14 paris 薨去 太公は歴山第
2 第四皇子現皇帝の叔父1850
一月十四御誕生1881ヨリ
1905海軍総督たりしか退職
後始終同地 [に] 居られたり

31 слово [語] (十一月十五日午後二
時四十分)

【44頁】

20/XI 塙露の態度

塙国政府の回答

17夕列国会議召集に関する
塙国政府の長文回答外務省に達
せり塙国の主張は相変

らす強硬にて合併問題を会議に付
することは飽迄不承知なりと信偽
は保し難きも此四五日来露政府の
態度軟弱となり奥国に於て聊か
なりとも Servia Montenegro に譲
歩せは露政府はそれにて満足す
る意ありとの説専ら当地にて行
はるゝ矢先17 Belgrade 発電に
同地にて同様の風説あり皇
太子の帰国後頓ニ揚かりし国民
の意気も再び消沈せりと

20/XI 極東太守再置

又々極東太守職設立ノ噂あ
り Приморская〔プリモルスカヤ〕、Амурская〔アムルスカヤ〕、
Якутская〔ヤクツカヤ〕新設の Камчат-

【45頁】

ская〔カムチャツカヤ〕四州 Иркутская〔イルクツカヤ〕Ени-
сейская〔エニセイスカヤ〕Якутская〔ヤクツカヤ〕三県 Сахалин〔サ
ハリン〕
一島を其管下に置かるべしと

(以上二件 87 слов〔語〕

十一月十八日午後八時発

キリール親王復職

日露戦役中官職を褫かれし

キリール太公復職元の通海
軍中佐に任せられ侍従武官に
補せられたり

18 слов〔語〕（十一月十九日午後
八時半）

アレクセイ太公遺骸到着
アレクセイアレクサンドロウキチ太公
遺骸20午前着直ちに盛なる
行列にて Петропавловск〔ペテロパブロフスク〕寺へ送
り埋葬但し皇帝は出迎へされざりし
如し（追電にて後段を削る）

25 слов〔語〕（十一月廿一日午後八時
四十五分）

【46頁】

奥国貨物排斥

土耳其に於ける奥国貨物排斥
の勢愈猛烈余勢独逸の貨物に及
びヤツサに荷揚せる独逸砂糖を
暴民等寄りたかり海中に投棄せり

波斯の政変

Berlin にては波斯の政変は露国の陰謀に出
つる如く観測する由なれど当地に
ては反て独逸の作略と観測す（?）

以上二件 81 слово〔語〕（十一月

廿四日午後十時廿五分)

波斯と独逸 (28/XI)

独逸の波斯懐柔策

夕刻新聞 Вечер [ヴェテェル] 着テヘラン發電
にシャーが憲法廃止勅詔を發し
たる内情を暴露して曰く今春以来
波斯宮廷の財政難は名状しかたき
程にして大膳部に召使ふコックの給
料を支払ふ能はず為にコックのストラ

【47頁】

イキ起りて奈何ともする能はずシャー
の御物を露国銀行に入質して一時の
困難を凌ぎし事あり是に於て露国
に救助を求めたれと露国はシャーの
心に染まぬ条件を付したる為其
事いつとなく沙汰止みとなり居る中
忽ち宮廷の財政見返へす程豊かに
なれり其筋にては租税の収入ありた
ればといへど然らず全く独逸の補助
に由りて然るものにして是より独逸
公使の宮廷に於ける勢力大に振へり
云々

波斯問題會議 (28/XI)

テヘラン駐紮露公使帰朝

テヘラン駐紮露公使 Гартвич [ガルトヴィチ]

は既に着京せり 明後廿七日外務省
にて波斯問題会議を開き外相
の外陸軍大蔵商務の各大臣も出席
公使の報告を聴取るべしと

土国外相談 巴爾幹問題 (28/XI)

【48頁】

政府の機関彼得堡通信
員に土国の外相語りて曰くスラーヴ
各国との談判は故障なく進行し居れり
近日 bulgaria Servia との協商
成立すへし巴爾幹諸国と握手す
るは同半島の平和を維持し半月帝
国の平和的發展を濟す所以
土耳其は能く此理を了解せり
又奥国との談判は同国か合併
問題に關聯する土耳其を始め
Servia Montenegro に対する賠
償問題を列国会議に付するを
承諾するに非すんば纏まる見込
なし

奥国の威喝 (28/XI)

奥国大使の威嚇
君子但丁駐紮奥国大使 Пала-
вачини [パラヴァチニ] は奥国砂糖の荷揚を
拒める波止場人夫の Strike を
中止せしめんことを土政府に要求

し要求容れられずは奥国旗を捲

【49頁】

いて撤退すへしと威嚇せりと風
説す

露国の覆牒（28/XI）

今二五 Wien 発電は奥国政
府の回答に対する露政府の覆牒
ハ既に Wien に達せる如くなれど
余の探聞する所にては露政府の
覆牒は未だ發送されざるもの、如し

以上五件 224 слова〔語〕
（十一月廿五日午後十時三十五分）

公債發行案

外債發行法案（28/XI）

手取り四五千万公債發行法
案二五議會へ提出されたり内
30千万は来年五月一日満期の五
分利付国庫債券買上又は切換
の為15千万は来年度歳入不足
補充の為

31 слово〔語〕（十一月廿六日午後
十一時十五分）

【50頁】

命令二途 (29/XI)

Гартвич [ガルトヴィチ] 談話

帰朝中のテヘラン駐紮公使 Гарт-
вич [ガルトヴィチ] 新聞記者との会談に於て
Ляхов [リャホフ] 大佐か波斯 казак [カザク]
に不都合の訓示を与へたりと
いふ説を事実無根と打消し
たり併し氏は同大
佐が高加索軍管区司令部に
隷属し一々公使の節制に従
ふ義務なき事情を認めざる
能はずして要するに其談話に
ては露国の方針外務と陸軍
と二途を出つるを掩ふ
能はず

我委員着露 (29/XI)

日露交通聯絡談判委員着

日露交通聯絡談判委員

一行今廿七無事着

以上二件 57 слов [語]

(十一月廿七日午後十一時三十七分)

【51頁】

秘密会流れ (30/XI)

対外策発表延期

Столпипин〔ストルイピン〕首相議会の横

議を恐れ対外政策の発表に同
意せしに依り近日 Извольский〔イズヴォリスキー〕
議会に出席一場の演説を為
す筈なりしも閣員に反対者あり
又々無期延期となれり

30 слов〔語〕

(十一月廿八日

午後七時五十分)

日米協約評

Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕本日の社

説に於て今度日
米協約を清国の政界に一変
化を来したる際締結されたるを
尤も事宜に適せりと認め露国
の利害関係より見て歓迎せざる
を得すとし且つ此協約は
予め露国に知照し其賛成
を得たる後締結されたるか故に

【52頁】

殊に平和を維持するに有効なり
と論せり

土京塙大使帰朝

本日 Wien 發電

土京塙大使本日出発帰朝すへ
し公然には賜暇帰朝と称すれ

ど実は事情切迫居堪まらぬ故
なりと

土伯談判順調

本日土京発電 Болгария〔ブルガリヤ〕との
談判不調説は虚伝なり現
に議定書の交換済み土耳其側
にては今週内に閣議
に付する筈 Болгария〔ブルガリヤ〕委員 Лям-
чев〔リヤムチェフ〕は昨日帰国せしも近日
再び土京に来るへし

塞国外相談

本日 Belgrade 発電 塞国
外相 Милованович〔ミロヴァノヴィチ〕露政府

【53頁】

機関通信の特派員に語り曰く
目下土京にての談判首尾よく成
立せは土国と親密の関係を
保つ基礎確定し従て巴爾幹
諸国の合縦にも便ならん併し
目下の葛藤を無事に解決し得
ると否とは奥国の進退如何に
依る奥国が Bos He 合併を
既成事実と認めすは列国会
議に参加せずといふは幾分か
情状酌量の余地あれど領土

を割きての賠償を峻拒するは
心得す塙国は二州を合併せし
以上は最早巴爾幹の土地に欲
望なしと声明すれど合併せる土地
の一部を我に譲り我国の障
屏を為すを承諾するは偶々其
声明の誠意に出つるを証する
所以に非すや聊かの地を割き
たりとて塙国に大損なれば
塙国は頓て列強の勧告を容れ

【54頁】

列国会議も成立せんと

ギンスブルグ事件

戦役中露国海軍用石炭を
供給せし Гинсбург〔ギンスブルグ〕は曩に
管轄税務署より納税規則
違反の廉にて145千の罰金徴
収の命令に接せしも彼得堡
区裁判所は此命令を不法
とし罰金を解除せり

以上五件 209 слов〔語〕

(十一月三十日午後九時廿三分)

Речь〔レチ〕の日米協約評

附たり Меньшков〔メニシコフ〕

の事

立憲民主党の機関紙 Речь〔レチ〕
本日の社説に於て日米協約
を評し近眼者流か日米
戦争を予想して空騒きしたる
を冷笑し両国の為す所は恰も

【55頁】

故らに此等の予想の反対に出
てたる如きものありと歎称し且つ
曰く日本の政策は實際的なり而
も何物も掴み得るものは皆掴み込
みて丸呑にする如き意味の實際
的にあらずして實力と希望とを
程好く調和し行く点に於て
實際的なりと或
向きへ当て實際的の日本は今
後も久らくは其新領土の扶植
に汲々として余念なからん
と評し穩健の批評を試み
たるに反し有名の恐日病者
Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕特別寄書家
Меньшков〔メニシコフ〕は兼ての戦争
予言外レ大狼狽の体にて
露清二国の為には寧ろ戦争
になつたか勝手なりしものと
本日の紙上に愚痴をこぼせり

【56頁】

Россия〔ロシヤ〕一矢を酬う

Neues Pester Journal

紙上に顕はれたる露奥秘
密条約曝露につき本日の紙
上にて不謹慎の論者によりて
評かれたる以上最早秘するも詮
なしとて条約の由来を記し
関係ノ明文を載せたる後仮令
三十年前の条約に如何な
る明文ありとも全欧の利害
に干繋ある目下の問題に何
等の影響を及ぼすへからずと
て1871倫敦会議の決議
を引証し伯林会議にて列国
の議決せる Bosnia Herzegovina
の位地は更に列国の協議
を経すして変更し得るものに
あらずと議決せり

奥大使交迭説

昨日付維也納來電は当

【57頁】

地駐紮奥国大使交迭すべしと
の報を齎らせり

以上三件 165 слов〔語〕

(十二月一日午後十一時廿五分)

Россия〔ロシヤ〕の日米協約評

半官報 Россия〔ロシヤ〕本日の社説
に於て日米協約評を試む
曰く両国は此協約にて1907
吾人か宣言せる主義に加担
せるに外ならずされは我立
場よりみても歓迎すへし況や
調印前我政府にも協約の要
旨を通告ありたるは偶々二国
の我に対す〔る〕関係親善なるを
証する所以にして此関係こそ
東洋平和の担保たるをや

46 слов〔語〕(十二月二日午後七時十分)

【58頁】

塞国内情

塞耳維首相 Milowanowitch

Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕特派員に語りし
所に拠れば Извольский〔イズヴォリスキー〕曾て Mi-
lo と会見の際 bos. her. 合併は
承認せざるを得ざるか故に塞
耳維は土地割譲を得て満足
すへしと勧告し露国は此問題
の為に戦端を開くを欲せさ
るか故に合併承認の意嚮

なるを漏したるもの、如し当
時列国の意嚮も略ほ同様
なる觀ありしかば Milo は即ち
此勸告に基づき政府の方針を
定めしに此方針は合併不承認
を標榜する在野党の方針と
相容れず爾來官民間に激烈
の軋轢を惹起せり或は政
府は特使 Пашич〔パシチ〕の露国
より歸るを待ち其報告を
聴取りたる上進退を決する

【59頁】

意ありし如し然るに其 Пашич〔パシチ〕
も昨夕既に歸着せ
り昨日 Belgrade 發電民間にて
は早くも内閣辭職の噂を伝ふ
こは虚聞ならんも早晚事実となつて
現はれんと觀測する者多しと
Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕本日の社説に於
て Milo を攻撃塞耳雜を売り
たる如く論したれと Milo よりい
へば反て Извольский〔イズヴォリスキー〕に売られ
たる感あるべしと冷笑する消
息通もあり

117 слов〔語〕

(十二月四日午後八時十五分)

【60頁】

露国近東策再変

露政府の巴爾幹政策又々一變
切りに解決を急くに至れり其
策として土耳其には賠償金を与へ
Bos. Her. 合併を承認せしめんとて
勸告中奥国は露仏土耳其
か承認を予め与ふるを条件と
し合併問題を列国会議に付す
る事を承認せりとかにて今度は
塞耳維 Montenegro の利益は第
二段に置かるといふ此変化を
来せし重なる原因は外債募集上
の都合にて蔵相〔ココフツォフ〕の
意見与つて力ありと

附たり

露都雜記に関する返電
電報料未着の通知

64 слова〔語〕

(十二月五日午後三時五分)

【61頁】

波斯公使着京

波斯公使 Isaak-хан〔ハン〕今朝
着京

奥国の軟化

本日維也納發電 奥国は Ser-

via Montenegro に対し強硬の態度
を取るに反し露国の列国会議
召集案には強ち反対せず唯或る
条件を付して同意の意嚮なりと

土耳其青年党の意気組

昨日君士担丁発電 土耳其青
年党は賠償金のみにては満足せ
ぬ意嚮なりと

塞国の憂色

同しく Belgrade 発電 太子帰国
の際には国民皆歓呼の声を挙
げしも三週間後に特使 Пашич [パシチ] 帰りて上下共
に憂色ありと果して何の兆ぞ

61 слово [語] (以上四件
(十二月五日午後八時十分)

【62頁】

公債募集の件

450百万公債発行予算委員会
の議に上り公債切換の為の3億
に付ては格別議論なかりしも
歳入不足補填の為の15千万
に付ては未だ予算未決定の
今日之を議するを非として少
数党の反対せしに拘らす12対
31にて終に可決し発行の条

件も蔵相に一任すること、なれ
り

Милованович〔ミロヴァノヴィチ〕談正誤
Serbia 首相 Милованович〔ミロヴァノヴィチ〕は
Новое время〔ノヴォエ・ヴレミヤ〕に現れたる其
談話を非認し Bos. He.
に自治を与へずして列国が合併
を承認する場合には Serbia は
土地割譲を要求せんと言ひたるに
て Извольский〔イズヴォリスキー〕も唯奥国は合併
の底意あれど列国は遂に之を

【63頁】

承認せんと将来を予想して談せしの
みといへり

Пашич〔パシチ〕談
帰国せる Пашич〔パシチ〕は往訪の露
新聞特派員に語り曰く Serbia は
Bos. He. の為 Sultan の主権下に在
りて列強の推挙せる prince を戴
き自治を得しめんと欲するのみと

Tittoni 演説の影響
Tittoni の伊国議会に於ける演
説は伊国は巴爾幹問題につき
三国同盟を脱する意なきも一々

其羈束を受けざる決心を声明

せるものとして Новое время [ノヴォエ・ヴレミヤ]

等皆満足を表せり

以上四件 128 слов [語]

(十二月六日午後九時五十分)

【64頁】

外相演説予報

近日 Извольский [イズヴォリスキー] が議会に於て為
さんとする演説の要旨左の如し

- 1 露国は直接にも間接にも Bos.
He. 合併問題に関する壤土両国の
特別談判を奨励せしことなし
- 2 露国は合併宣言の前にも
後にも合併に同意を表したること
なし

Bos. He. mondai は国際問題也
Berlin 条約に調印せる各国の同意
を経るに非ずんば如何とも解決し得
へきに非ず露国の見解は此の如くニ
して始終渝らす英仏伊三国も同様の
意見也

- 3 若し列国会議に於て合併を
承認せば露国は其承認の条件
として関係の巴爾幹諸国に賠
償を与へんことを要求す
- 5 Aukok とは現に談判中

Aukok は合併問題を会議に付

【65頁】

する事を承認せざれどもいつまでも
承諾せぬにても非ざるべし奥匈
の地位今困難也

4 巴爾幹諸国の同盟に露国

は満幅の同情を表す同盟は Slave
諸国は勿論土耳其にも必要也
露国は土耳其と今日以上の親
密を希望す

6 Serbia Montenegro には露国

は矢張慎重の態度を取らんことを
勧告す露国は如何な場合に於て
も戦争に引入れるゝことを欲せ
ず然るに二国の兵力のみにて奥
国と争ふとも到底勝算なし故に
二国は目下の談判の成行を待つ
を得策とす今日の場合輕拳は
尤も不可也

159 слов [語]

(十二月七日午後十時廿分)

【66頁】

絶東自由港廢止法案

本日（九日）絶東自由港廢止法案

の議事あり Шетлиенцев〔シエトリエンツェフ〕財政委員会にて可決せし旨を報告せり本日は
商務大臣 Шипов〔シポフ〕の演説ありたれと
未だ議決に至らず政府反対党は
波蘭党に至るまで該法案に反
対なれと大勢ハ殆ど決し居る
ものゝ如し

45 слов〔語〕(十二月九日午前十一時十五分)

同上追報

前電後引続き絶東自由港廃止
案につき討論あり蔵相 Коковцев〔ココフツォフ〕
演説するに及び議会の形勢頓に一
変急転直下の勢にて遂に可決其
実施期限も政府の都合に一任
することゝなれり

Срочная〔至急報〕 31 слово〔語〕

(十二月十日午後九時)

【67頁】

公債発行法案可決

手取450百万公債発行法案
昨夜議会の議事に登り立憲民主党が
議会に発行条件議決権ありと主
張し予算未決定の今日歳入不足
補充の為の公債〔を〕議する非を鳴らし
反対せしに拘らず遂に政府要求通
可決

31 слово〔語〕

十二月十二日 午後五時十七分

Oldhamia 号事件

日露戦役中台湾沖にて捕獲
され浦塩へ拘引の途中ウルップ島
附近にて沈没したる Oldhamia 号
損害賠償事件ハ曩に Либава〔リバヴァ〕
捕獲審検所にて賠償要求ノ権
なしと審判されしに荷主なる Stan-
dard oil company 船主なる Sel-
ford 汽船会〔社〕は不服を唱へ扣訴
中の処今度彼得堡高等捕獲審

【68頁】

検所は前審判を正当とし該訴願を
却下せり

47 слов〔語〕

(十二月十三日午後九時三十五分)

Муравьев Муラウキヨーフ卒去

近日君士但丁駐紮大使に転
任の噂ありし前法相現任羅馬
駐紮大使 Муравьев〔ムラウキヨーフ〕昨日任地に
て卒去

21 слово〔語〕

(十二月十五日午後零時三十七分)

新任参謀総長

キーエフ総督兼同軍管区司令長官

騎兵大将 СХОМЛИНОВ〔スホムリノフ〕陸軍参

謀総長に栄転 КРОНШТАДТ〔クロンシタット〕要

塞司令長官 ИВАНОВ〔イヴァノフ〕其後を襲き

キーエフ軍管区司令長官に転補

29 слов〔語〕

(十二月十六日午後四時十三分)

【69頁】

露政府の覆牒

露政府は昨日大秘密に奥国へ回答を發せり 此回答に於て露国は奥国の提案を容れ合併問題につき予め関係列国と協議を遂げ斯くして纏め得たる意見を列国会議々決の基礎と為すことに同意せり

モンテネグロ議会祝電

Montenegro 議会は開会劈頭

露国議会に祝電を送り露国かスラヴ民族保護の使命を忘れざらんことを希望せり

土耳其議会への祝電

露国議会は本日開会の土耳其議会へ祝電を送れり右につき兼て土耳其との接近を憚はす巴爾幹問題に冷

淡なる右党議員抗議書を提出せり
其領袖の一人 Пуришкевич〔プリシケヴィチ〕祝電中
Parlament の語あるが気に喰はぬ故

【以下白紙】